

【セグメント分析・活用シート】

施設分野 児童館

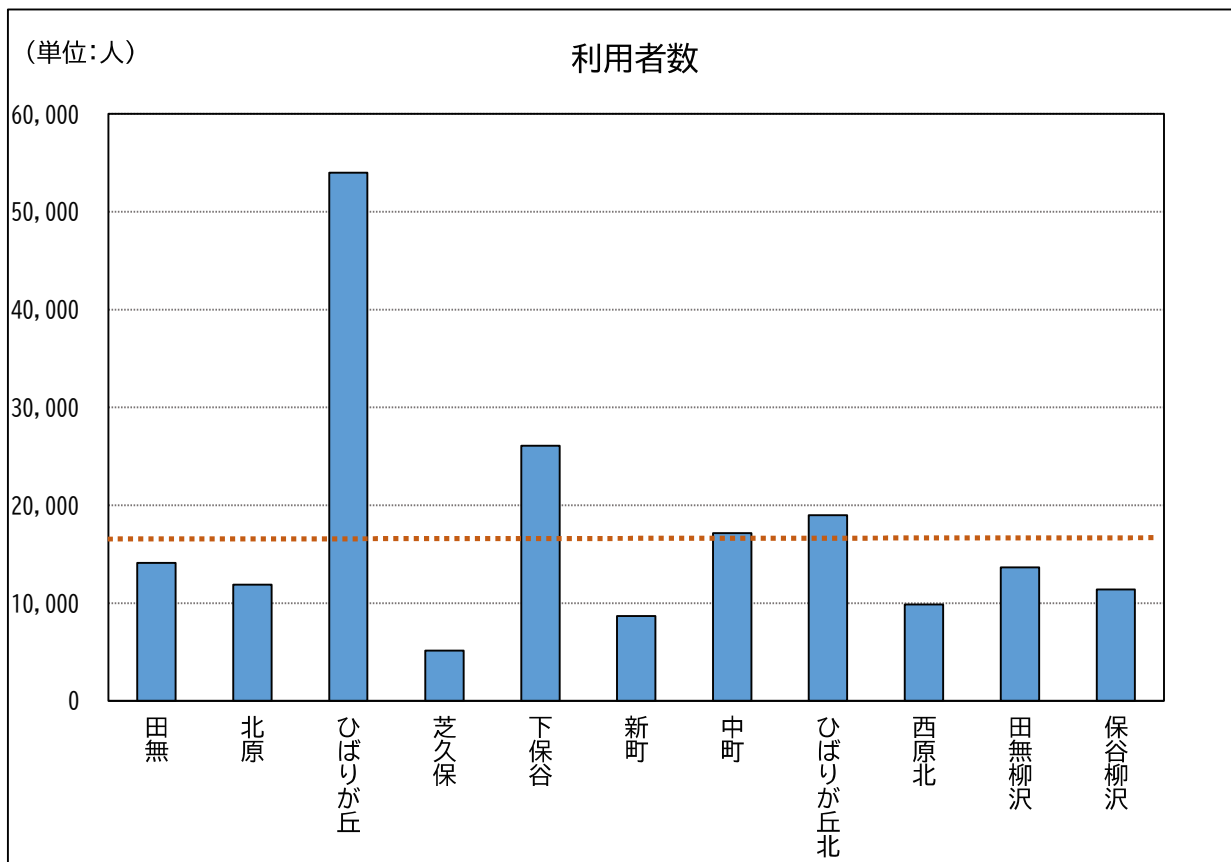
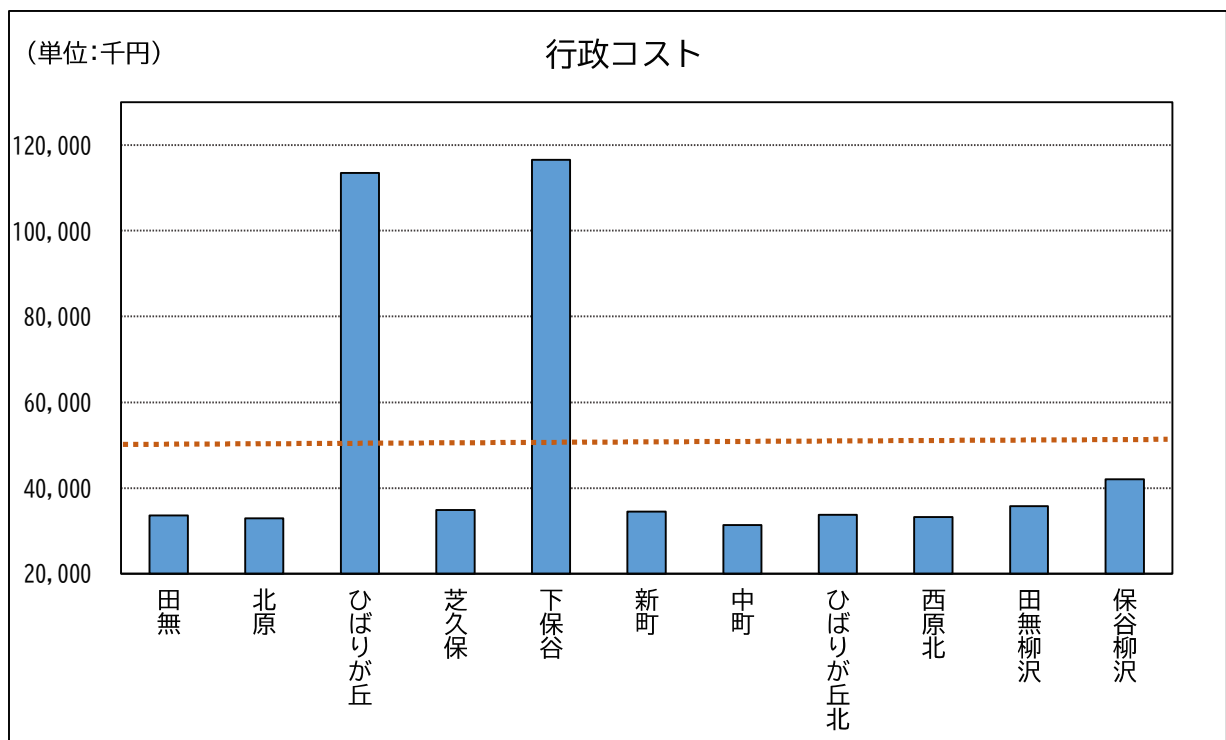
1 分析指標

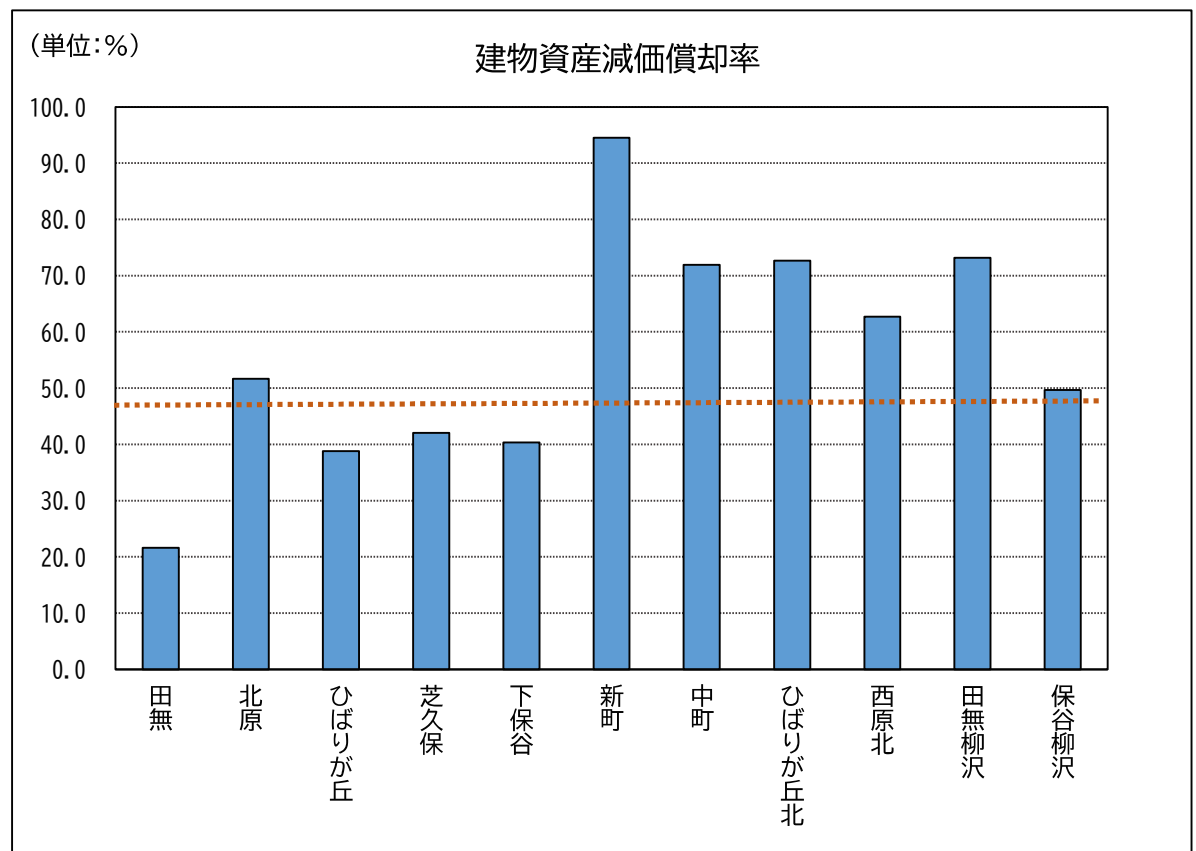
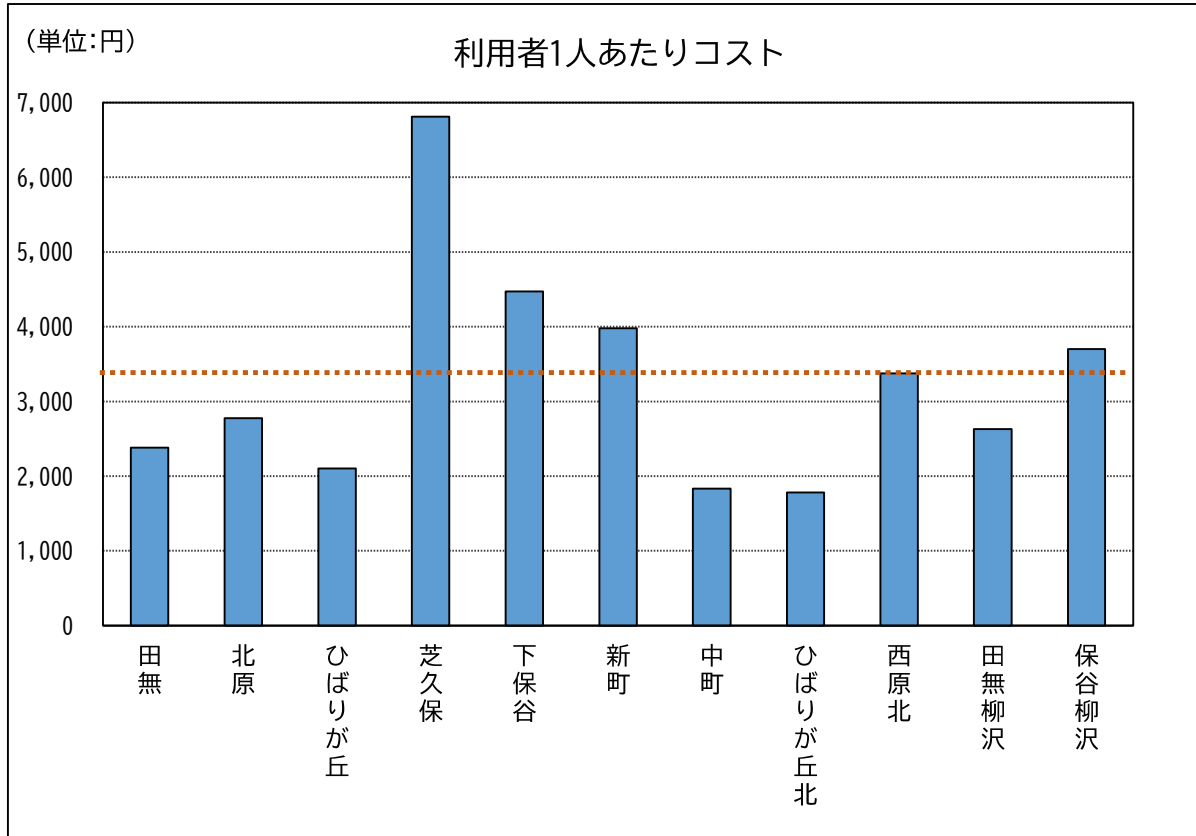
施設名称	田無児童館	北原児童館	ひばりが丘児童センター	芝久保児童館	下保谷児童センター	新町児童館
行政コスト (千円)	33,574	32,902	113,475	34,820	116,509	34,527
延床面積 (㎡)	488.00	324.03	2178.59	442.75	2027.72	370.70
1㎡あたりコスト (千円)	69	102	52	79	57	93
利用者数 (人)	14,100	11,866	54,000	5,111	26,052	8,677
1㎡あたりの利用者数 (人)	29	37	25	12	13	23
利用者1人あたりコスト (円)	2,381	2,773	2,101	6,813	4,472	3,979
建物資産減価償却率 (%)	21.6	51.7	38.8	42.1	40.3	94.6

施設名称	中町児童館	ひばりが丘北児童センター	西原北児童館	田無柳沢児童センター	保谷柳沢児童館	平均
行政コスト (千円)	31,374	33,779	33,205	35,798	42,086	49,277
延床面積 (㎡)	480.74	512.85	483.29	390.33	535.27	748.57
1㎡あたりコスト (千円)	65	66	69	92	79	75
利用者数 (人)	17,133	18,967	9,836	13,626	11,379	17,341
1㎡あたりの利用者数 (件)	36	37	20	35	21	26
利用者1人あたりコスト (円)	1,831	1,781	3,376	2,627	3,699	3,258
建物資産減価償却率 (%)	71.9	72.7	62.7	73.2	49.7	48.2

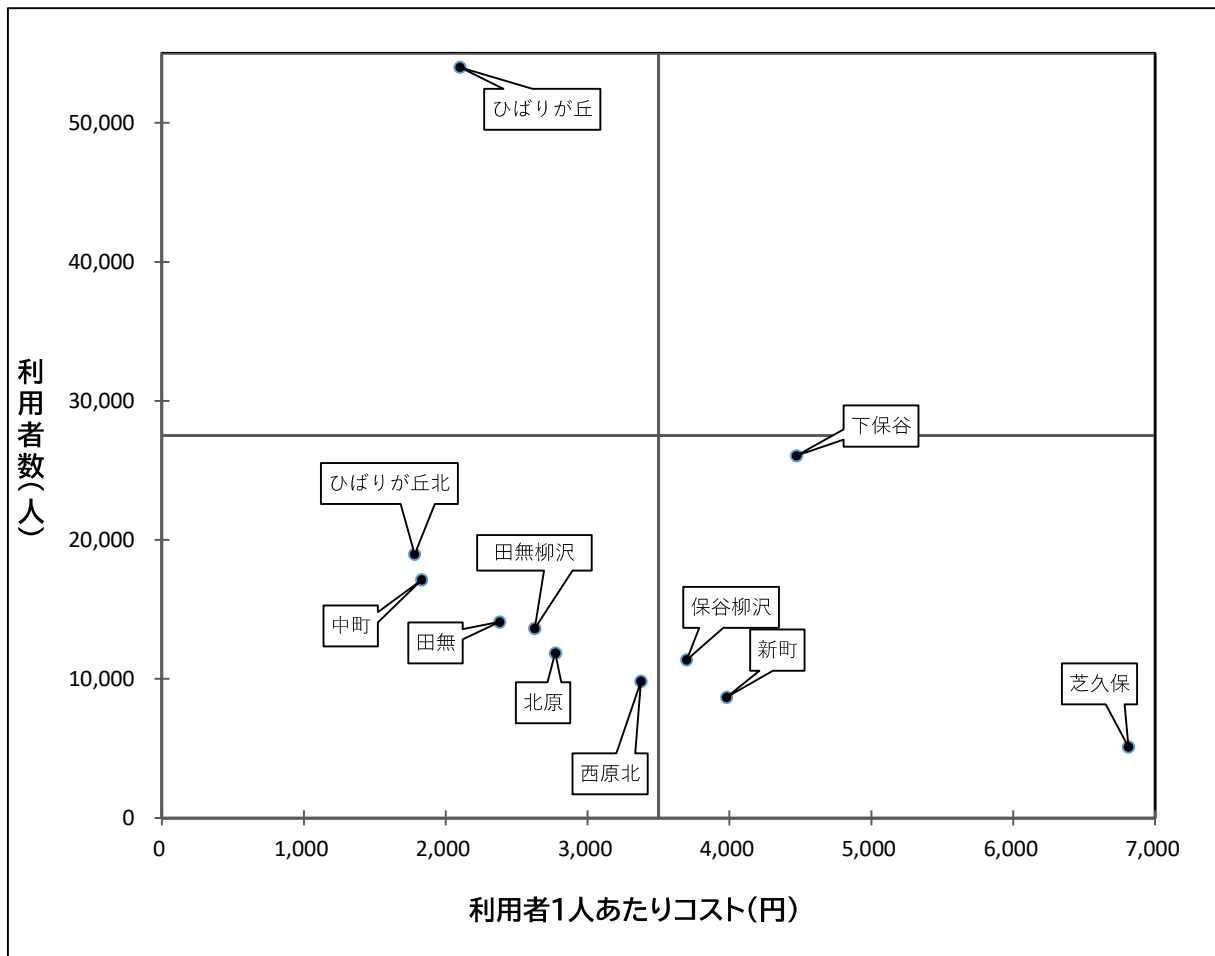
※田無児童館は、都営住宅からの無償貸与によって運営している施設のため、施設建設時の工事費が発生しないことから、同時期に整備された他の施設と比べ、建物資産減価償却率が低くなっています。

2 グラフ分析





3 評価グラフ



4 評価グラフから見る主な分析

<p>田無柳沢 児童センター</p>	<p>市内南部地域に位置する「田無柳沢児童センター」は、児童館の規模としては市内で2番目に小さいが、施設の規模に対して併設学童クラブの在籍児童数が多いため、経常的に多数の学童クラブ入会児童が児童館施設を使用する状況にある。結果として、児童館を利用するために来館する児童が自由に活動できる場所が限定されてしまうため利用人数が増加しにくい傾向にある。</p>
<p>新町児童館</p>	<p>市内南部地域に位置する「新町児童館」は、児童館の規模としては市内で3番目小さく、武蔵野市との市境に位置する立地や近隣の小中学校と児童館周辺の道路の繋がりの悪さ、施設の老朽化や体育室や館庭のような運動を楽しめる天井の高い設備がないこと等から利用人数が増加しにくい傾向にある。</p>
<p>芝久保児童館</p>	<p>市内西部地域に位置する「芝久保児童館」は、児童館の規模としては市内で4番目に小さく、施設内の部屋の一つ一つが小さいこと、館庭がなく、体育室の天井も低いことから球技のような運動が楽しみにくいこと等から小中学生の利用人数が増加しにくい傾向にある。</p>

5 現状に対する施設所管課の総括

<p>田無柳沢 児童センター</p>	<p>田無柳沢児童センターは、周辺を複数の学校（小中高）に囲まれた立地であり、潜在的なニーズの高い施設であると考えている。しかし、施設の小ささに対し、学童の利用者は定員の206%（令和4年度4月予定）と超過率が高く、児童館施設にも学童児が溢れているような状況である。現状では、適切な児童館運営が行われているとは言えず、早急な対策を行う必要がある。児童館等再編成方針においても、南部地域に中高生特化型児童館を設置するとしており、立地に恵まれた当センターには、大きな役割を担うことが期待されている。</p> <p>今後は、児童館に併設する学童クラブを柳沢小学校の校庭に移設することで、児童館を利用したいと考える児童が自由に利用できる環境を整備する。また、田無柳沢児童センター近隣には中学や高校が複数存在することから、中高生の要望に合った利用しやすい環境を作ることで、小学生だけでなく中高生の利用者数の増加を目指す。</p>
<p>新町児童館</p>	<p>新町児童館は、市境に位置する立地や近隣の小中学校からの距離、施設の設備等から、利用率の劇的な向上が望みにくい施設である。児童館等再編成方針においては、南部地域の地域型児童館の2～3館を統合整理し、中高生特化型児童館を設置するとしており、施設の今後について検討する必要がある。</p> <p>ただし、併設する学童クラブは、定員超過率の高い向台地域の学童クラブの過密化軽減の役割を担っており、学童クラブの入会児童数の推移を注視しながら、当面の間は運用を継続する。</p> <p>施設の老朽化が進み、耐用年数が近くなってきていることから、児童館としての将来にわたっての永続的な使用は困難であると考えざるを得ないが、併設の学童クラブについては当面の間の運用が必要であると思われる。</p>
<p>芝久保児童館</p>	<p>芝久保児童館は、各部屋が小さく大人数が同時に同じ遊びができないことや、館庭がなく体育室の天井が低い球技が出来ないことなど、施設の構造上、高学年など活発な遊びのニーズに応えられない部分があり、小中学生の利用率の劇的な向上が望みにくい施設である。令和4年度からは、乳幼児の利用が多い日曜開館事業を開始することで、通常開館時においても乳幼児の利用を促進する取り組みを行う。</p> <p>日曜開館事業を実施することにより、乳幼児（及びその保護者）の利用を喚起し、継続的な利用に結びつける。乳幼児（及びその保護者）に利用しやすく魅力のある行事を実施し、利用者数の増加を目指す。</p>

